

# 広土会新聞

## 第6号

2001.3.1 発刊

発行所 広島工業大学 広土会  
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1  
TEL 082-921-3121

## 巻頭言



広土会会長  
島 重章

2001年の扉が開かれた大いなる期待の中で、混沌とした世紀末を振り払うかのように、私たちの生活も21世紀のスタートをきったのであります。

広土会会員の皆様にはますますご健勝、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

昨年度の土木建設分野におけるニュースは、談合の発覚、255件の事業中止、ゼネコンの債務免除、公共工事適正化法の制定など、今までに無い土木建設業界への風当たりがますます強くなる一方で、リサイクル、ISO、コスト削減などの声が高まると共に、コンクリート問題や自然災害の多発傾向をもたらしたのであります。広土会会員の皆様も大なり小なりにこれからの影響を受けておられることと存じます。

さて、広土会は昭和43年10月に発足以来、本年度で34年目となりますが、この間、土木工学科および建設工学科を卒業された広土会会員は総数約3,828名に上ります。最近の就職状況を拾ってみますと、平成11年度の社会建設工学コース（土木

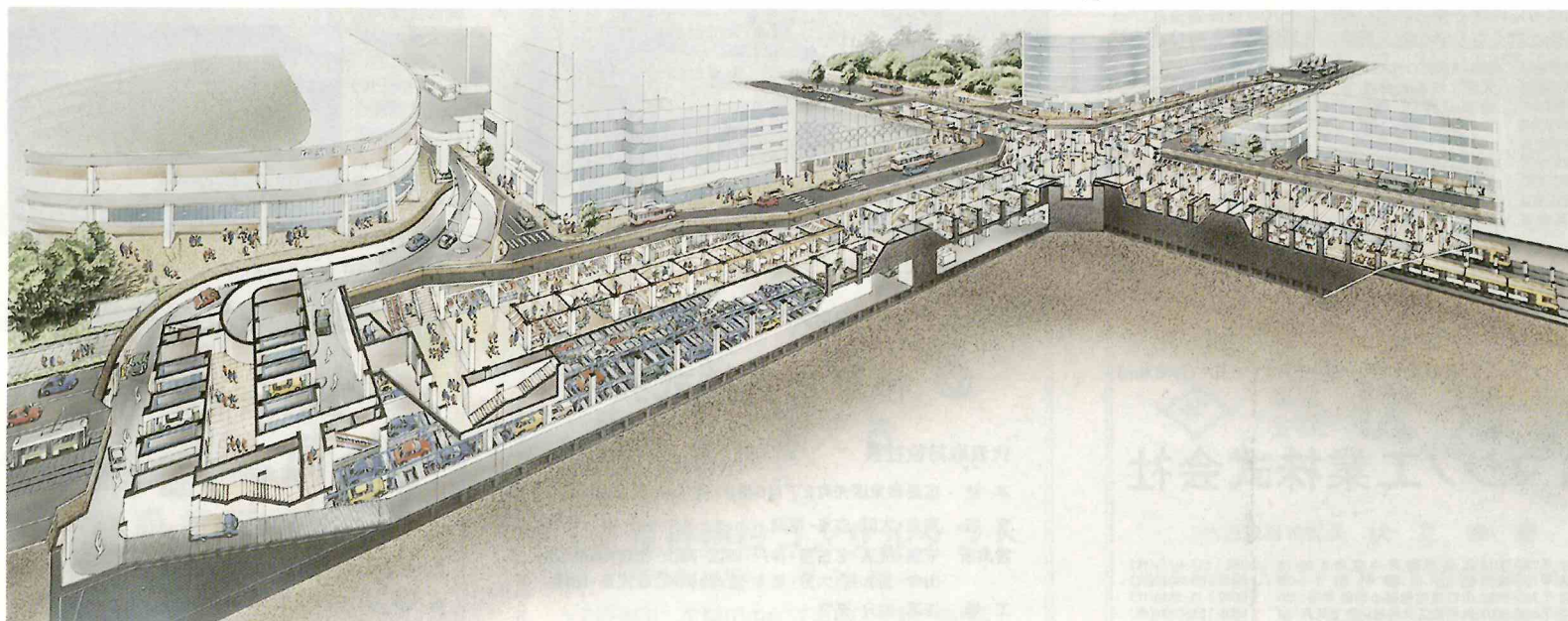
系）は建設業61%、コンサルタント13%、官公庁10%、大学院進学10%、その他6%の100%を達成し、さらに建築工学コース（建築系）は建築工事業39%、設計情報19%、官公庁2%、大学院進学14%、その他16%の90%を達成しました。平成12年度も厳しい就職状況の中にあつて、100%に近づきつつあることは、大変喜ばしいことであります。また、全国各地で多くの広土会会員がそれぞれの分野で活躍されていることは、建設工学科教職員はもとより広土会と致しましても大変心強い限りであり、御同慶の至りであります。

しかしながら、会員数が多くなればなるほど情報の伝達が希薄になり、母校や広土会の連絡が届きにくいことも事実であります。広土会本部におきましては、年一回の支部長会議を継続して開催し、大学の現状を説明させていただき、各支部からのご意見、ご要望を拝聴し、広土会活動の活性化を図る資料とさせていただいております。広土会が活性化していくためには、卒業生会員が中心となり直接、間接にその活動へ参画していただくことであると考え、昨年から各支部への援助金を多少なりとも増加したことと、卒業生による幹事活動を提案し、広島市在住の卒業生を中心に幹事会を組織して活動をはじめたことであります。その中で検討された主な審議事項は、卒業生サロンを将来的に作りたいことや、技術士受験生への対策指導を行うこと、既卒者への終身会費の導入と連絡方法の検討、支部長会議における検討議題を推進することなど、活性化のための具体的な審議を行う組織がスタート致しました。

さて、ご承知の方も多いかと思いますが、大学進学18歳人口の低減に伴う受験生数の低下現象が、今後の大学の質と経営とに大きく影響を与えてくるものと思われます。この数年の中で、各大学が新たな改組転換を示しているのも、影響の一環であると考えられます。本学では工学部および環境学部の中で、昨年から各学科の名称変更を致しましたが、本学科では既に学科名を変更して第1回目の「建設工学科」卒業生を平成13年3月に送り出します。土木工学科から数えると第33回の卒業生となります。本学科では、第29回生から都市工学コース（土木系）と建築工学コース（建築系）を土木工学科の中で教育指導してまいりましたが、今年度からは「建設工学科」として、「社会建設工学コース」および「建築工学コース」の卒業生が広土会会員として卒業致します。また、大学院修士課程の卒業生も、土木工学専攻として第11回の卒業生を送り出しております。以上のように、建設工学科におきましては、入学、卒業、就職において前年度と変わらぬ効果を上げておりますのも、教職員の一致協力のもとより、卒業生の方々の広土会会員としての御支援、御協力の賜物と感謝致しております。

最後に、申し遅れましたが、平成12年度より皆田前会長のあとを受けて会長を仰せつかりました。また、副会長他役員も人身一新いたしました。新役員共ども未熟者でございますが、広土会を盛り上げていきたいと考えておりますので、会員各位の御指導、御鞭撻をよろしくお願いする次第です。

## 魅力的な都市空間「紙屋町地下街」の誕生



提供：国土交通省中国地方整備局広島国道工事事務所

## 新任の先生より一言



新任挨拶

建設工学科・教授  
宮崎 祐助

昨年4月に広島工業大学建設工学科の一員に加えていただきました。分野は建築で、専門は地盤基礎工学です。1985年に榊大林組へ入社し、昨年3月に退社するまで、終始、技術研究所に勤務し、地盤・基礎に関する技術の研究と開発、およびコンサルティングを担当してまいりました。35年間の実務を通して体験的に得てきた知識もすべて、学生諸君に分け与えたいと考えております。

出は、生まれも育ちも東京、深川です。典型的な下町っ子でして、「バカヤロウ!」は、枕詞状態の生来のがさつ者です。ただし、江戸っ子は「臍月の鯉の吹流し」と申しまして、腹に一物もあります。ご承知おきの上お付き合いいただければ、誠に有り難く思う次第です。趣味はゴルフ、酒はダメで甘党、若干肥満気味、目下廿日市に単身で生活中、まあ、言わぬが花といったこともあります。自己紹介としてはこんなところです。

建築の基礎、根切り山留め関係の実務で、広土会の皆様のお役に立てる機会があれば幸せに思います。いつでも声をかけてください。

## 就職状況

就職・進学は自分自身の問題である



建設工学科(社会建設工学コース)  
就職委員 水野 信二郎

就職・進学は学生自身の将来の人生を決定する最重要事項です。併し、残念ながら3年生になっても自分の就職を他人事のように考え、進路を自己決定できずに迷っている学生が意外に多いのです。就職試験は君達が現実の社会と接触する初めての経験であり、これから学生が各自自立して本格的な人生が始まるスタートなのです。スタートで躓かないようにしましょう。土木分野の就職状況は現在の景気から左右されやすく最近の不景気な社会情勢から、昨年と同様今年も就職戦線は厳しかったけれど、本年度の就職内定率は95%を超えています。つまり、本学では学生個人の将来の方向がはっきりしていれば、企業に就職すること自体はそんなに困難なことではありません。

ただし、最近は企業の求人活動が早まっているため、大学では3年次生に対し2月17日に保護者懇談会を開催して、3月の春休期中には学生が企業訪問と入社試験に積極的に取組めるように考えています。従来、入社試験は4月からと云うのが相場でしたが、最近は東京や大阪地区の企業ほど早まる傾向が強くなっているの、十分な情報を集めて遅れを取らないようにして下さい。また最近、インターネットから試験を学生が直接申し込むエントリー方式を採用する企業が増えています。インターネットからの情報を得た場合、当然個人的に出来ますが、各ゼミの先生に相談して研究室のパソコンを利用して申し込んで下さい。

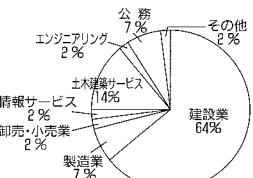
大学内だけに閉じこもり就職戦線の厳しさを理解しようとしても、それは無理な話です。その代わりに、現3年生次生は3月の春休假期には遊びは止めて、自分の希望する分野と地域に的を絞って本気になって、複数の会社を訪問する事を薦めます。就職試験、特に、面接試験は全ての学生が苦手です。併し、企業にとってこれほど重要なものはありません。大きな企業の中には3月から入社試験を始めるところもあり、最近では自由応募する企業が増える傾向にあるので、本命の企業の試験を受ける前に自由応募で就職試験の面接を受け、そこで何を問われ、何を準備すれば良いかを自らの経験を通して掴み、社会の厳しさを自分自身で肌を感じる事も受験対策の一つだと思います。

就職試験の最盛期は、現在でも4月と5月です。今年の場合6月中旬までに内定を得られない場合、それ以後民間会社からの求人は殆どなくなりました。無論、6月以後でも有りますが、

前田道路株式会社  
住友建設株式会社  
りんかい建設株式会社  
国土総合建設株式会社  
極東工業株式会社  
広成建設株式会社  
フジタ道路株式会社  
堀田建設株式会社  
新建設株式会社

株式会社  
大新土木株式会社  
国家公務(二種)  
大分県庁

広島工業大学大学院  
大阪府立大学大学院



求人が広島を中心とする中国地方に限られてきます。従って、それ以前の数ヶ月間、就職活動に真剣に取り組むことが大切です。最後に、学生諸君の奮闘を願ってやみません。



平成12年度・建築工学コース  
学生の就職状況について

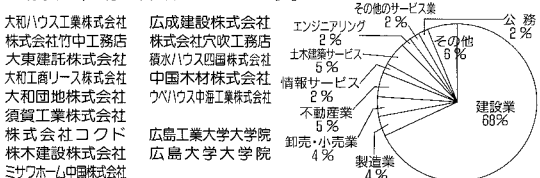
建設工学科(建築工学コース)  
就職委員 福田 由美子

ここ数年継続している極めて厳しい経済情勢の中、建設業界における雇用状況も悪化傾向が続いています。求人数は、大きく減少した昨年度より更に3割近くも減少しています。

本年度の卒業予定者は78名で、そのうち、就職を希望する者は65名、平成13年1月末の時点で就職内定者が56名、内訳は建設業43名、建材関係5名、設計事務所・コンサルタント4名、公務員1名、その他3名となっています。また、6名の大学院生が修了予定ですが、6名すべてが5~7月に建設業、コンサルタント、製造業に内定しています。女子学生については、以前から厳しい状況ですが、各自が早めに積極的に動いたこともあり、就職希望者ほぼ全員が内定しています。内定の過程は、1回目の応募で内定した者は約3割で、第一志望の企業に合格することが非常に難しくなっています。時期的には、早い者では4月に内定を得ているものの、優秀な人材をじっくり選抜する企業活動期間も長期化しています。7月までに内定したのは内定者のうち約6割で、夏期休暇中あるいは後期授業が始まってからも就職活動をする学生が多くなってきています。企業の採用形態も、大学推薦から自由応募へと変化してきており、また、インターネット等を通じた募集も見られ、多様な就職活動への対応が求められています。

このような状況にあって、学生自身の積極的姿勢が不可欠になりますが、3年次からガイダンスや意識調査等を通じて、就職への意欲高揚を促したり、活動準備の指導を行っています。意欲ある優秀な学生を採用するために、2、3月から企業説明会を行う企業もあり、早い時期から企業研究、企業訪問等を行い、準備を整えておく必要があるようです。ただし、せっかく就職した会社を短期間で辞める卒業生も毎年何名かは見られ、しっかりと情報収集をし熟考して進路を決定すること、また、社会の厳しさへの心構え等を、如何にして伝えるかが、課題となってきました。

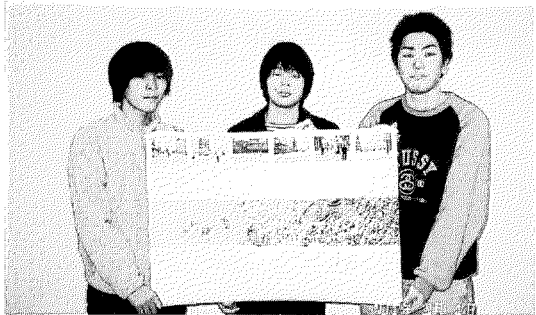
大学院へは、他大学を含め10名が進学予定で、高度な技術、知識の修得を目指して、大学院希望者も年々増えてきています。全員が100%確実に自らの道をつかんだとは言えない状況ですが、このような厳しい状況だからこそ、常に努力を重ね、自己の能力を高めることで、技術者として成長していけることを期待しています。すでに、社会で活躍の先輩諸氏のご指導、ご鞭撻を、切に御願ひいたします。



## 建築設計競技会

建設工学科(建築工学コース) 3年次生  
安井裕之 山名健介 嶋渡克顕

昨年の五三会主催の設計競技会のテーマは、「公・共の場~都市の広場~」というものでした。応募作品は約50作品という、今までにない応募総数でした。それに対して我々が提案したコンセプトは、「都市は、1つ1つの空間が重なり合うことによって構成されている。そこには、境界が引かれ、広場もまた固定化されて「1つの場」としてしか存在していない。広島都市にある道はすべて舗装され、場と場・場と道を固定化している。



そこで、舗装を取り除くことにより、「まさ土」が表われ、建物以外の境界はなくなる。土を踏みしめることによって、徐々に締め固められる。その時に出来たわずかなくぼみは、ある時は「道」となり、ある時、そこが「広場」となる。定められた「場」で行為を行うのではなく、自らの行為により「場」をつくる。それによって生まれる創発的行為・個々の行為がひびきあい生まれる場、それが「公・共の場」である」という考えでした。結果的に我々の案は奨励賞に選ばれました。皆の作品を見てみると、携帯と情報をテーマにした作品が多い中、僕達の「土」をテーマとした土木的思考は、これしかありませんでした。審査された岡河真先生も、僕達の土という面白い提案を評価されたと思います。

## 材料実験室ニュース

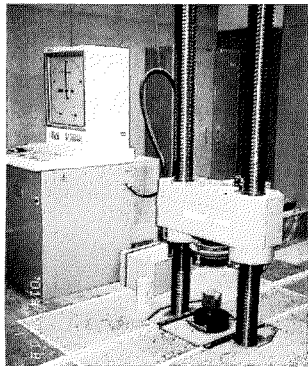
建設工学科 米倉亜州夫 伊藤秀敏

3号館1F(3-104)にある材料実験室は、卒業生の皆様にとっては材料実験、建設工学実験あるいは卒業研究でご存知だと思います。材料実験室といえば、3号館の北側に面していること、あるいは3Kの代表であるコンクリートを取り扱っている関係からコンクリート特有の匂いのする暗いイメージが蘇ってくるものと思います。

実験室の伝統的な雰囲気は変わっておりませんが、平成11年度に旧文部省の補助により、研究設備として、2000kN(約200tf)容量の耐圧試験機が設置されました。

この試験機は衝撃吸収機能が備わっているため、高強度コンクリートあるいは高強度コンクリート部材(有効スパン4mまで)の曲げ試験も行うことができます。

この試験機でモルタルあるいはコンクリート充填鋼管柱の変形挙動を調べたところ、鋼管に充填したモルタルは軸方向に30%以上(半径方向約20%)変形したにも拘わらず、ひびわれが発生することなく中央部が突起している花瓶と類似の形状を保持しておりました。長年、脆性材料であるコンクリートを取り扱ってきたが、このような不思議な挙動に遭遇したのは今回が最初です。今後は、この変形挙動のメカニズムを水和生成物の微視的構造の面から明確にする予定です。



## 地震調査

平成12年鳥取県西部地震被害調査



建設工学科(建築工学コース)  
岩井 哲

平成12年10月6日の13時30分に、鳥取県西部を中心に発生した地震は、平成7年1月の神戸の地震(マグニチュードM7.2)に匹敵するM7.3と発表された。震源近くの鳥取県日野町根雨と、境港市では震度6強が観測され、広島市内においても震度4のかなり大きな揺れを感じたのは記憶に新しい。死者が零であったのが幸いではあるが、地震の規模に対して意外と地震被害は小さかったと思われる。中国地域としては近年にない規模の地震でもあり、日本建築学会中国支部の調査活動に参加する形で、広島工業大学工学部建設工学科からも佐藤立美、高松隆夫、岩井 哲の3名が緊急調査に出かけた。地震発生の翌々日である10月8日(日)と9日(月)の連休をつぶす形で、少雨~くもりのやや悪い天候ながら、主たる被災現地に入り、調べることが出来た。この調査に関する報告会は、広島工業大学広島校舎において10月26日の午後開催され、調査概要の緊急報告書をもとに、多数の参加者に報告・情報提



## 豊かな人間社会を創造する

総合建設業



株式会社 増岡組

本社 東京都千代田区丸の内1-8-2 ☎03(3284)9780

呉本店 呉市中央1-6-28 ☎0823(21)1441

広島本店 広島市中区鶴見町4-25 ☎082(504)5050

道路埋設指針

建設大臣認定擁壁

PCボックスカルバート ザ・ウォール (H=5.0m)



マシノ工業株式会社

本社 〒733-0012 広島市西区中広町3-25-18 (082) 233-0111(代)  
福山支店 〒720-0805 福山市御門町2-5-39 (0849) 25-8855(代)  
山口支店 〒753-0002 山口県吉敷郡小郡町津市1130 (0839) 73-3533(代)  
山陰支店 〒695-0003 鳥取県江津市松川町下河戸188 (0855) 55-0124(代)  
本店 〒699-5133 鳥取県益田市神田町口615 (0856) 25-2380(代)  
工場 広島・江津・益田

プレストレスト・コンクリート構造物、設計、施工



極東工業株式会社

代表取締役社長 澤井 正 壽

本社 広島市東区光町2丁目6番31号

支店 東京・大阪・広島・福岡

営業所 千葉・横浜・名古屋・神戸・四国・岡山・松江・鳥取  
山口・北九州・大分・熊本・宮崎・長崎・鹿児島・沖縄

工場 江津・大分・高宮

供がなされた。広島地域は、近年、地震被害想定で危険性が懸念されている、来るべき安芸灘・伊予灘地震（大きければM7級）への対応の必要な時期である。今回の地震被害が何故、予想よりも小さかったのかが、調査・研究の対象として各種学会で取り上げられている。広島工業大学の建設工学科のスタッフも種々の立場で関わり、また学会としての地震被害調査報告書をまとめる作業を行いつつある。

ここに付した写真は震源に近く近い鳥取県日野町下樓の一戸建て木造住宅の被害状況である。この地区の瓦葺き屋根はほぼ全数が被害を受けており、折からの雨のため青い防水シートで被われている。家屋の大部分が応急危険度判定で黄（要注意）カードを貼られている。中には赤（危険）もあり、一部に緑（調査済み＝安全）が散見された程度であった。この地域に共通してみられる、いかにも壁の少ない木造家屋は、外観上、建物の残留変形がほとんど見られないものの、窓越しに障子の紙が全部破れているのが見て取れ、相当な大変形を受けたことがわかる。倒壊を免れることがきわめて重要であることを再認識させられた次第である。

## オリゼミ



建設工学科  
1年次 福谷 大介

僕が一年前に参加させてもらったオリゼミは、クルーザーに乗って瀬戸内海を回遊し、普段見慣れない下からのアングルでより接近して大きな橋を見物しようという社会建設工学的な企画でした。印象に残っているのは、とても天気が良く絶好のオ



リゼミ日和であったことと、食べ放題の豪華な昼食、そしてまだそんなに橋について興味のない1年生は船の中でおしゃべりをしていて、実際に橋の構造を見て興奮していたのは同伴してくださった先輩方だったと言うことです。

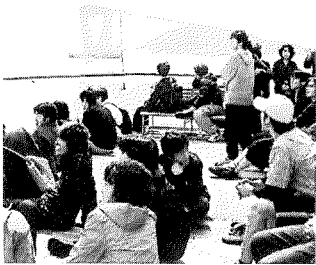
オリゼミの最大のメリットは、やはりそれまで何日間か友達のできないまま大学にきていた1年生が、キャンパスライフをエンジョイするための友達をつくるチャンスであることでしょう。今回のオリゼミでは、最初集合場所に到着すると名札をつけるように指示されました。それで相手の名前がすぐわかるようになるのです。そして船が出発すると時折クイズが出題されて、知らない相手同士で「なあ、今のわかるか」とか実にスムーズに話ができるきっかけがありました。

オリゼミにはその学科の先生方も同伴されていて一緒にご飯を食べたりできるので、今後いろいろお世話になる方々だから、話しかけたりして名前を覚えてもらって仲良しになるということも可能です。

僕が思うに、逆にオリゼミという行事がないとすれば、友達を増やすということに関しては、かなり難しくなるでしょう。

いろいろな人と話をする機会なんて滅多にないことですし、はじめは皆緊張していた1年生も、しだいに特定の話す人やグループができて、今度は話しかけにくくなったりますからです。

入学して早い時期に、こういうコミュニケーションを目的とした行事を行うのはすばらしいと思います。実際このオリゼミで僕も友人ができ、とても有意義な経験をすることができました。



## 大学祭



建設工学科3年次 杉田 知久

我々学生にとって「大学祭」とはいったいなんだろう。私がこの原稿を執筆するにあたり、このような疑問がふと湧き出てきました。

今回の大学祭学科展では「紙屋町地下街」の展示、そして急遽決定した「鳥取西部地震報告」についての展示をしました。どちらもタイムリーな内容で、来られていた人の興味を引いたのか、延べ300人もの方々にご来場いただき、当初予想していた人数より多くの人に観に来ていただいたのに驚かされました。そのうえ御協力いただいたアンケートにも「わかりやすく、雰囲気も良いので是非来年もやって欲しい」といったような内容の意見もたくさん見られ、成功に終わったのではないかと思います。

しかし大学祭が始まるまでは、部員も4名と少なすぎた準備が進まないため、はたして本当に学科展を開けるのだろうか？と非常に不安でした。そんな私の心強い味方になってくださったのが先輩や先生方でした。資料を提供してくださったり、機材を運んでいただいたり、本当に助かりました。

私にとって今回の大学祭学科展は3回目になりますが、こんなにも大勢の方に支えてもらったのも、不覚にも涙を流してしまったのも今回が初めてでした。これこそが「学生にとって大学祭とは」の答えの一端ではないでしょうか、授業にはない多くのことを学び得るひとつのチャンスの場ではないかと私は考えます。

最後になりましたが御協力をいただきました多くの先生方、そして〇〇日の方々の皆様に心より感謝致します。今後とも広土会をよろしくお願いします。



## 広土会主催 『技術士受験研修会』報告

広土会幹事会において審議され、卒業生のための企画の一環として開催することが決定した「技術士受験研修会」が、平成12年11月11日に広島工業大学広島校舎において開催された。第1回目の企画であり、また他の資格試験日とも重複したことなどの不十分さはあったが、卒業生11名の申込みの中で開催された。

この研修会を開催するにあたり、広土会で開催することを熱意を持って話をされたのが、平成12年度の4月に本学建設工学科に御就任された宮崎祐助教授であった。宮崎先生は、建築基礎の部門において榎大林組技術研究所所長を歴任され、現在は地盤工学会副会長としてご活躍の中、幅広い御見識の上から、本学卒業生が多く技術士になることの必要性を話された。

第1回研修会の開催概要を以下に記す。

|      |                                                                |
|------|----------------------------------------------------------------|
| 日 時  | 平成12年11月11日                                                    |
| 場 所  | 広島工業大学広島校舎                                                     |
| 講 師  | 宮崎祐助先生                                                         |
| 参加資格 | ①広土会会員であること<br>②技術士を目指している者<br>③過去に受験をした者<br>④平成13年に受験を予定している者 |
| 定 員  | 20名程度                                                          |
| 会 費  | 4,000円（終了後の懇親会費を含む）                                            |
| 申込み先 | （有）広島構造技研、奥川 浩（第3期）<br>TEL 082-295-5533、FAX 082-295-5543       |

この広土会新聞を編集集中に朗報が入ってきた。この度の受講

生が見事合格したのである。早速、ここに合格者本人の声を皆さんへ紹介します。

また、第2回目は、新たに受験を予定されている皆さんのための研修会を3月10日（土）に開催を予定しています。ぜひ上記の申込み先へ連絡してください。



### 研修会受講生が『技術士へ合格』!!!

（株式会社オリエンタルコンサルタンツ）  
中田 武（11期生）

技術士受験体験談

|      |                        |
|------|------------------------|
| 入学年次 | 昭和50年入学                |
| 期    | 第11期                   |
| 専攻学科 | 土木工学科                  |
| 学生番号 | 504080                 |
| 氏名   | 中田 武                   |
| 勤務先  | 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 中国支社 |
| 階級   | 課長                     |
| 専門   | 構造物設計                  |

技術士受験動機

私は在学中から将来は土建屋のおやじになり、しっかり金儲けがしたいと考えておりました。そのためには、まず土木現場の経験と知識、そして資格が必要であると考えておりました。

それで学校を卒業してすぐに京都のほうの中堅ゼネコンに入社し、そこでは鉄道構造物建設現場に2年、道路建設（舗装工事）の現場に2年、の計4年間現場監督の仕事に従事し、この間に現場で必要な資格として2年目に2級土木施工管理技師と測量士の資格をとり、4年目に1級土木施工管理技師をとりました。

この資格をとったところで退社し、より大きなプロジェクトに参画したいと考え、地元である広島のコンサルタントに就職しました。

そこでは、現場管理業務が主流のコンサルタントであり、山口の山陽自動車道の施工管理業務に2年と広島の共同溝の施工管理業務に4年従事し、この間に現場の経験と設計の知識をある程度は得ることが出来ました。その後、合計で10年の現場の経験をいかし、現場である設計の業務に従事していましたが、時代のながれか、建設業界を取りまく環境が現在のような資格社会に移り、コンサルタントの最高の資格である技術士が必要になってきました。

受験の回想

5、6年前までは、個人的に必要な資格であると考え受験しておりましたが、3年前から、会社でも昇級の絶対条件となり、周囲の言い方も、「技術士はコンサルタント業務を行う上での免許書である。」「免許書の無いものが業務を行うことは、運転免許なしに車を運転するのと同じことだ。」と言われるようになりました。

現在建設関連の業界はリストラの時代に入っており、資格無くしては会社に残れない状況となっています。

思えば、受験の最初のころは、内容はともかくなんとか量的に記述ができれば通るのではないかとあまい考えて望んでいたように思います。昨年くらいから内容の重視と、試験問題の予想をある程度の中できるようになり、ねらって取りにいけるようになりました。それで、昨年は7回目にしてようやく一次試験は合格したのですが、これが、合格すると二次試験の方が一次試験より大変だと言うことがよくわかりました。努力はしたのですが、情報不足と合格率90パーセントという錯覚があり、みごと落ちてしまいました。幸運にも今回一次試験に合格でき、前回の経験をいかし、何とか合格できました。

途中で何度もあきらめかけましたが、絶対とるという気構えと、絶対あきらめないという気合いも必要です。

今後とも多くの合格者がでて、大学の実績に貢献できることを願っております。

最後に、受験に際し、適切なアドバイスをいただいた宮崎先生、島先生に感謝し、この場を借りてお礼申し上げます。

## 卒業生から



### 先輩から後輩へ

（大学院土木工学科2年）  
児玉 明日香（31期生）

「大学時代の友人は、一生の友となる」とよく聞きますが、卒業を前にしてその言葉を思い出しています。私の父も、土木の2期生として広島工業大学にお世話になり、幸運にも親子2

地球環境と共に生きる GREEN DESIGN COMPANY

### 営 業 種 目

#### ◆法面保護工事

- 厚層基材吹付工
- 客土吹付工
- 立体・水併用客土吹付工
- 種子吹付工

#### ◆地盤改良工事

#### ◆造園工事

- モルタル・コンクリート吹付工
- 連続繊維補強土工
- 吹付法棒工
- フィットフレーム工

#### ◆土木一式工事

#### ◆人工芝・植生土のう製造・販売

- 簡易吹付法棒工
- 落石防止網工
- グラウンドアンカー工
- ロックボルト工

#### ◆修景工事



サンヨー緑化産業株式会社

本 社 〒733-0822 広島市西区庚午中三丁目12番9号 TEL (082) 272-2111  
広島営業所 〒731-3167 広島市安佐南区大塚西六丁目5番10号 TEL (082) 849-1100  
営 業 所 福山店・山口店・松江店・浜田店・北九州店・熊本店  
◎ホームページ <http://www.sanyoryokuka.co.jp>



橋梁設計 橋梁補修・補強設計 橋梁保全点検



株式会社 コンサルタンツ大地  
取締役社長 坂手道明

広島市西区己斐本町2丁目20番16号 〒733-0812  
TEL 082-273-1471 FAX 082-273-1473  
Email [ga@cdaichi.co.jp](mailto:ga@cdaichi.co.jp)



洋伸建設株式会社

本 社 広島市西区西観音町2番1号  
電話 (082) 292-8737 (代表)

営業所 岡山、福山、呉、東広島、広島  
山口、四国

代に渡り、同じ先生方から土木を学ばせて頂くことができました。父はよく大学時代の友人の話や、広工大での思い出をとても嬉しそうに話してくれます。そして、私にもこの広工大で、卒業後も一生付き合える友人と出会えたことに、とても感謝しています。大学時代において、勉強に励むことはもちろん重要ですが、社会人となる前の様々な経験ができる貴重な時間だと思っています。後輩の皆さんには、その貴重な時間を無駄にすることなく、自分の目標を持ち、その貴重な経験を共にしてくれる友人を作ってください。そして、その友人と切磋琢磨し、お互いを成長させていって欲しいと思います。



\*\*\*技術士挑戦奮闘記\*\*\*  
中国電力株  
原子力立地推進本部  
島根立地調査事務所  
中本 龍治（3期生）

懐かしい広島工大校舎での試験。狭くて硬い固定された椅子で丸一日文章を書き続ける。遠近両用メガネで手元がぶれる。とうとう途中からメガネはずした。悪戦苦闘であったが、ともかく書き終えた満足感はあった。

さて、記述内容であるが、私は、入社以来約30年間水力発電所の建設・維持管理に従事し、特にダム管理に関し、降雨・出水解析、洪水流解析、貯水池水質問題、ダム挙動解析、自動制御等を専門としてきたので、「電力土木」の「ダム」を選択した。体験論文としては、広島支店土木建築課長時代に大出水に伴い大田川水系の濁流長期化問題が発生し、この問題解決のため諸対策を講じたが、特に立岩ダムに緊急に設置した簡易表面取水設備について、その計画・設計・施工及び数値解析等による効果の確認に至るまでを論述した。

この試験は、口頭試験も含めると長丁場であり、気持ちの高まりをどう持続させ、要領良く勉強するかがポイントのように思われる。なんと長い1年であったが、充実もしていた。

## 支 部   だ   よ   り



新世紀を迎えて

関東支部・千葉県  
梶野 良夫（2期生）

皆様と共に新世紀を迎えたことをお喜び申し上げます。  
新世紀になって変わったことの一番は、卑近なところでは中央省庁の再編によって国土交通省が発足したことでしょうか。今のところ発足したばかりなので具体的な変化は感じませんが、経験からして、長い歴史の中から建設省と運輸省の事業の進め方については当然ながら相違があります。暫くはギクシャクしたところも垣間見ることもあると思いますが、やがて落ち着くところに軟着陸するはずです。期待しています。

さて、21世紀に入り我が国の土木建設業界の明日はどうなるのでしょうか。更に国際化されることから、我が国独自の体質では立ち向かえないのは火を見るより明らかです。では体質改善ですが、現在国において法律の改正により、批判されている入札契約の方法が急展開で変化しています。この変化に速やかに対応できるのがキーワードかと思われます。具体的には、以前から言われていることですが社会の要求する個々の人材育成が急務です。がんばりましょう。近況としてこんなことがありました。平成13年1月14日に開催された船橋市成人記念駅伝競走大会B区間20kmにおいて、1区の私から2区浦安市在住広土会B期の橋本千代司さんにたすきを渡すことができました。両者の力走によりチームも中盤にはいることができました。橋本さんは地元浦安市でランニング同好会のリーダーをしているそうです。今後の広土会及び会員の益々の御健勝をお祈りいたします。



ヒューマンネットワークの形成

関西支部・西宮市役所  
岩崎 完爾（2期生）

広土会新聞の発行部数が4千部と聞いて、櫻井季男先生が、少人数の卒業生数でも全国ネット形成をめざしたいので、就職先は年度に1社1名が望ましいと言われていたことを懐かしく思い出しました。

毎春、百名余りの学生が希望を胸に実社会へ巣立ち続けられ、これだけの大きなヒューマン・ネットワークを形成されたこと

に、30余年の歳月の重みと感激しました。

これから、私たち先立者が健康で長く生きること、ネットワークのさらなる拡大が見られることを嬉んでいます。

さて、関西支部では、支部長の佐賀勉さん（2期、駒井鉄工（株）勤務）が、一昨年末に突然広島へ転勤され、急きょ私がお世話させていただくことになり、支部の定例行事の新卒業生歓迎の夙川堤桜見会（4月）と総会・懇親会（8月）を会員の協力を得てなんとか無事終えました。

昨年末、佐賀さんが大阪勤務に戻られましたので、会員諸氏のご賛同を得て復任して頂きます。

情報産業の暴発的發展で、21世紀の幕が開きました。これから増々ヒューマンネットワークが重要になって来ると思いますので、学生諸氏等会員の皆様におかれましては、一層人恋しさを感じていただいて広土会行事に参加されるよう期待します。

尚、関西支部の連絡先は次のとおりです。（事務局）片山ストラテック（株）神田（14期）、魚住（25期）電話06-6552-1236（内）306、FAX06-6553-4779

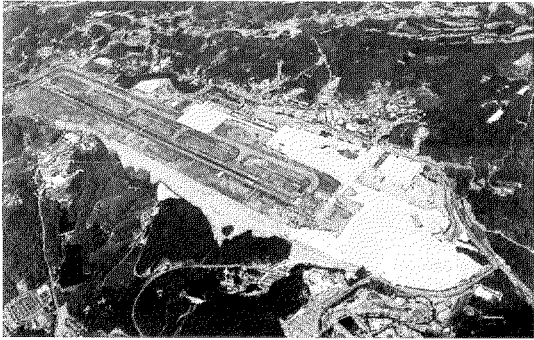
### 近況

岡山支部・岡山県空港整備事務所  
青江 邦男（1期生）

昨年まで、平成17年国民体育大会の準備に携わっていましたが、今年から岡山空港滑走路3,000m化に従事しております。岡山県では、いち早く21世紀を展望した社会基盤整備を積極的に進めた結果、バブル崩壊後の景気停滞により、税収に占める借金返済額の割合が全国ワースト1位になり、当分凍結としていたビッグプロジェクトも白紙撤回という厳しい状態ですが、空港整備など広域交通網の整備は県民の生活向上に不可欠ということで継続し、平成13年10月の共用開始の運びとなっています。東京、札幌、仙台、宮崎、鹿児島、沖縄、ソウル、上海、グアムに定期便があり、今回3,000m化によりヨーロッパ、アメリカ西海岸にも大型機による直行が可能になります。駐車場無料ですので兵庫県西部、広島県東部の方々の利用も期待しています。

公共事業に携わる者として、最近特に感ずることは、計画時から時間的に経過すれば県民のニーズも変わるということを念頭において、費用対効果が最大になるよう常に計画の見直しが必要ではないかということです。

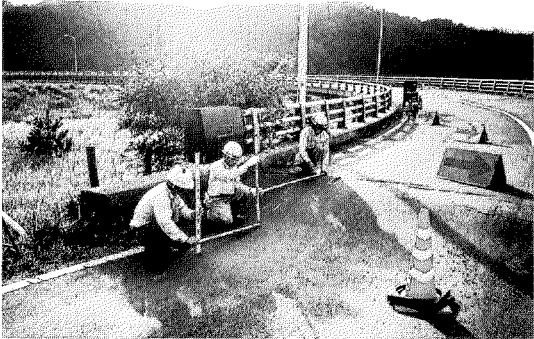
とりとめのめないことを書きましたが、最後に、広土会と会員皆様方の益々の発展とご健勝をお祈りいたします。



鳥取県西部地震騒動記

鳥根県支部・松江市役所  
西村 佳夫（10期生）

平成12年10月6日に発生した鳥取県西部地震により松江市も震度5弱を観測し、中海干拓事業に伴う堤防を利用した農道（大海崎、手角）2路線、損壊干拓地に大きな被害を受けた。



写真①



写真②

大海崎農道（L=2,189m W=7.0m内橋梁L=257m）は、干拓事業以前、中海に浮かぶ小島であった八束町（大根島）と松江市を結び生活道路であり早急な復旧が求められた。このため液状化現象のメカニズムの解析もせずライフライン確保に奔走する事態となった。地震発生は13時30分頃、15時から1時間全面通行止めによる大海崎橋取り付け部段差補修（写真①）、16時から21時まで片側通行させながら路面調査実施、最終路線バス通過後の21時から全面通行止めによる1次応急仮工事（路面陥没箇所について舗装盤剥ぎ取り後、土砂埋戻、路盤工施工2,991m）、翌日6時30分全面開放、以上が復旧工事の時間経過である。工事時間が夜間であり、液状化現象（写真②）による舗装の亀裂や陥没の範囲を特定できず現場は混乱を極めたが何とか通勤時間までに道路開放出来た。

阪神大震災以来自治体の危機管理能力が問われているが、今回の場合は現場までの幹線道路の被災が無く、周辺で工事をしていった機動力のある業者の協力が得られ速やかに処理できた。しかしながら本格的復旧工事については、昭和の国引きと言われた干拓事業中止のため道路の最終的な帰属（農林省or国土交通省or鳥根県）について綱引きがあり最終決定まで紆余曲折が想定される。省庁再編以前の事象であったが最後に縦割り行政の悪弊を露呈したのは残念な事であった。

21世紀を迎えて



広島支部・株ニュー技術  
広本 忠典（15期生）

とうとう21世紀になりました。学生時代、21世紀になるとき自分達はなにをやっているかという話したこともありましたが、20世紀から21世紀にかけての年末年始は、例年とかわりなくあわただしく過ぎていったという感じがします。我々15期生も卒業後18年が経とうとしています。皆40代となり、それぞれの立場で頑張っていることと思います。

今、日本は回復の兆しが見えない空前の不況に喘いでいます。特に建設関連業はここ数年その影響がきびしいようです。広土会会員の皆様は大部分の方が建設関連業に身を置いていると思いますが、私も例外ではなく、昨今の一段と厳しい公共事業予算の削減にまいっております。そうしたなかで、数年前から広土会広島支部のお手伝いをさせていただくようになり、あらためて、同窓生という絆の大切さを実感しました。支部活動を通して諸先輩方とお会いする機会が多くなり、いろいろなお話を伺うことができるようになりました。立場はそれぞれ違いますが、環境の厳しさは変わらないようで、先輩の苦勞された話を聞き参考にさせていただいたり、いろいろな相談に乗っていただいたりしています。時には仕事上での新しい情報を得ることもあります。やはり、同じ業界にあって同じ学校、同じ学科の出身と言う関係には特別な思いが皆あると思います。

21世紀幕開けの今年、先行きはまだまだ不透明ですが、公共事業への社会のニーズは決して低いものではなく、まだまだ不可欠なものです。建設関連業の一端を担う集団として、これからも広土会会員の間で交流を深め、情報を交換して広土会を発展させていく必要性を感じています。私自身も広土会の会員の一人として、先輩後輩の絆を大切に、21世紀も頑張っていきたいと考えております。



広土会のゲンカミに臨んで

広島県北支部長・株和田組  
和田 一雄（4期生）

広土会活動の一環として「広土会新聞」第8号を発刊するので「原稿の執筆を」と命令を賜り、「さて、さて何をや」と思案しながらも21世紀にいいよいよ突入した訳だから自分達は、2世



“高”環境づくり **フジタ**

広島支店/広島市中区中町8-6 tel (082) 241-4131

建設コンサルタント

**和幸土木設計株式会社**  
( YTI-CAD CENTER )

代表取締役社長 **磯 亀 兼 吾**  
取締役会長 **加 村 博 志**  
E-mail :wakohsec @liime.ocn.ne.jp

本 社 ☎739-2106 広島市高屋町稲木2927-2  
TEL (0824) 39-0380 FAX (0824) 39-0384  
支 社 ☎730-0847 広島市中区船入南2丁目5番11号  
TEL (082) 295-2985 FAX (082) 292-6451  
本郷営業所 ☎729-0415 豊田郡本郷町上北方  
TEL (0848) 86-4586

環境と人との和の創造

**和田組**  
株式会社 和 田 組  
一級建築士事務所  
有限会社 ワダテクノス  
代表取締役 **和 田 一 雄**  
昭和47年土木工学科卒

石田博朗 小南孝晴 米近 貢  
昭和47年電気工学科卒 昭和48年土木工学科卒 昭和55年建築学科卒

**WADA GUMI Co.,LTD** **HARMONY WITH NATURE**  
☎739-1804 広島県高田郡高宮町房後125-20  
TEL (0826) 57-1314(代) FAX (0826) 57-0400



## 支部長会議報告

### 広土会を取り巻く最近の動き

広島支部事務局  
河原 不二夫 (3期生)

広島支部は、地元ということもあり、広土会の会議に多くの会員が出席していますので、全国の会員の皆様にその内容を紹介します。

平成12年度の広土会総会と第9回支部長会議は、昨年の7月に新会長になられた島先生を始め27名が出席し、熱心に議論が交わされました。

- (1) 広土会規約の改正について
  - これまでの規約は、学生を主体とした内容であったが、卒業生が充実してきたことから、卒業生を主体とした内容に変更する。
  - 今後の総会では、卒業生主体の新体制により、支部長会議と併せて開催する。
- (2) 平成11年度会計報告及び事業報告
  - 承認する。
- (3) 平成12年度予算案及び事業計画について
  - 予算案の中で、広土会の財産として複数の預金があるため、この財産の適正な管理等について検討することを条件に承認する。
  - 事業計画案の中で、各支部の活性化を図るため、一支部当たり3万円の援助金を支出することとし、来年度事業報告することで承認する。
- (4) 平成12年度役員選出について
  - 島広土会会長から役員(案)の提示があり、承認する。(別記)
- (5) 各支部からの報告
  - 最近の活動状況の報告
  - 各支部とも若年層の参加者が少なく、運営に苦慮している。
- (6) その他
  - 会費の徴収方法について、平成10年度卒業生以降終身会費としたことに伴い、従前からの卒業生とのアンバランスなどの対応策について今後の検討課題とする。
  - 予算案のうち、広土会財産(約940万円)の有効な使途については、卒業生のための会員制サロンを設立してはどうかとの意見があり、設立の可否について今後の検討課題とする。
  - 予算案のうち、特別講演会の内容について、大学側から技術士受験対策の講習会にしてはどうかとの意見があり、取り入れる方向で、今後の検討課題とする。

続いて、総会・支部長会議で先送りされた検討課題について、昨年9月に島会長を始め16名の幹事による幹事会を開催しました。

- (1) 会員制サロンの設立について
  - サロン運営のための出資方針、運営方針、清算方法や会計規則、監査規則、運営体制、決算監査、利用料金など様々な課題について議論した。
  - 具体的な候補場所、諸費用、運営内容などについて提案があり、詳細な検討を行った。
  - 結論として、サロンの継続的な運営に課題があること及び破綻時の責任論などリスクが大きいこと、幹事長以下5名で継続検討課題とする。
- (2) 会費の徴収方法について
  - 新卒生は、平成10年度から、終身会費として卒業時に1万5千円納入している。
  - 従前の会員は、年会費千円(5年ごとに一括して5千円)を納入している。
  - 教職員・学生は、それぞれ年会費として、千円・5百円を納入している。(準会員)
  - 課題点として、卒業生の終身会費の額、会員と準会員及び既納者と未納者の取扱いが取り上げられ議論した。
  - 案として、10期まで5千円、20期まで1万円、30期まで1万5千円又は既納者は5千円、未納者は1万5千円などがでた。(未決定)
  - 次回の幹事会(13年3月予定)で協議し、支部長会議で決定することとする。
- (3) 講習会の開催について
  - 新任の宮崎先生(地盤工学会副支部長)による技術士受験のための講習会を開催する。
  - 論文の添削を主体とする指導を行う。
  - 幹事数名によって、会員に講習会参加の働きかけを行う。
- (4) その他
  - 広土会のホームページを作成する。(石井先生の発案)

## 大学からのお知らせ

### 教育懇親会報告

#### ー12年度から「就職・進学相談コーナー」開設ー

12年度教育懇親会は土曜日を利用し、10月21日の姫路・小都・高松会場を皮切りにスタート、11月11日の福山・松山会場まで4週にわたり行われた。全会場の出席者は698名、本学会場の出席者が約半数を占め346名だった。

本学の懇親会は10月28日午後開催。各学科にわかれ最初に学科全体説明会、続いて個別懇親会がゼミ室などで行われ、最後に学部ごとの懇親会が開かれた。

12年度から新たに各会場に「就職・進学コーナー」を開設、個別懇談を終えた多くの保護者が相談に訪れた。就職委員の教員や就職部のスタッフが総出で対応、説明やアドバイスを聴いて安心された保護者も多く見られた。単位修得を含む勉学の状況、生活ぶり、景気不透明下での就職の見通しなど説明をする教員も、聴く方の保護者のほうも例年以上に真剣。懇親会でもあちこちで懇談風景が見られた。

毎年この教育懇親会では、地元同窓会支部役員の協力により、懇親会で地元での就職状況等の説明が行われている。近年、同窓会の子女の入学も増えてきており、今後とも、大学・後援会・同窓会のトライアングルをいっそう強固にしていく必要がある。



### オープンキャンパス開催される

12年度オープンキャンパスは、7月29日(出)、9月23日(出)に行われた。

初日は真夏日、2日目は曇天で昼過ぎに雨がちらつき、それぞれ天候が心配される状況ではあったが、第1回目に568名、第2回目は306名と、ほぼ例年並みの参加者を数えた。大阪、福岡など、かなり遠方からの来学者もあり、オープンキャンパスに対する関心の高さがうかがえた。

当日は「入試概要等全体説明会」から始まり、学科別のミニ講義、施設紹介など、志望を真剣に考えている高校生に「実際に見て、体験」してもらおうためのイベントが多数開催された。

今年度のポイントは、学科改編により新たにスタートした工学部各学科の紹介。受験生や保護者に理解してもらおうと、教員の説明にも熱がこもっていた。



## 平成12年度広土会役員

2000.07.29

|            |                                            |             |               |
|------------|--------------------------------------------|-------------|---------------|
| ・会長(1名)    | 島 重 章 (広島工業大学)                             | (広島東部支部)    | 古 谷 秀次郎 (1期生) |
| ・副会長(3名)   | 浅 野 照 雄 (広島工業大学)                           | (山口支部)      | 渡 辺 勉 (6期生)   |
|            | 景 山 敏 則 (1期生)                              | (愛媛支部)      | 鴻 海 茂 彦 (2期生) |
|            | 徳 山 宏 (2期生)                                | (阿讃支部)      | 松 山 憲 一 (1期生) |
| ・幹事(若干名)   | ◎竹 内 勝 喜 (1期生)                             | * (九州支部準備中) | 平 川 敏 郎 (2期生) |
|            | 大志茂 孝 (1期生)                                |             |               |
|            | 狹 戸 尾 浩 (2期生)                              |             |               |
|            | 伊 藤 秀 敏 (2期生)                              |             |               |
| ◎幹事長       | ○三 浦 勝 行 (3期生)                             |             |               |
|            | 奥 川 浩 浩 (3期生)                              |             |               |
| ○副幹事長      | 河 原 不二夫 (3期生)                              |             |               |
|            | 長谷川 和 志 (6期生)                              |             |               |
|            | 寺 本 章 (5期生)                                |             |               |
|            | 大 本 眞 (12期生)                               |             |               |
|            | 広 本 忠 典 (15期生)                             |             |               |
|            | 舩 繁 昌 治 (17期生)                             |             |               |
|            | 林 中 憲 治 (30期生)                             |             |               |
| ・会計(1名)    | 村 中 昭 典 (16期生)                             |             |               |
| ・監査役(2名)   | 二 神 弘 (広島工業大学)                             |             |               |
|            | 石 井 卓 郎 (2期生)                              |             |               |
| ・支部長(関東支部) | 梶 野 良 夫 (1期生)                              |             |               |
| (関西支部)     | 岩 崎 莞 爾 (2期生)                              |             |               |
| (岡山支部)     | 青 江 邦 夫 (1期生)                              |             |               |
| (島根支部)     | 小 糠 弘 明 (2期生)                              |             |               |
| (広島支部)     | 景 山 敏 則 (1期生)                              |             |               |
| (広島県北支部)   | 和 田 一 雄 (4期生)                              |             |               |
| ・学生役員      | 幹事長(3年)                                    | 杉 田 知 久     |               |
|            | 副幹事長(3年)                                   | 広 居 克 哉     |               |
|            | 幹 事(大学院)                                   | 橋 本 智 和     |               |
|            | (大学院)                                      | 石 原 慎一郎     |               |
|            | (大学院)                                      | 釣 田 修 宏     |               |
|            | (研究生)                                      | 岩 花 利 幸     |               |
|            | 3年新メンバー                                    |             |               |
|            | (3年)                                       | 中 塚 有 紀 子   |               |
|            | (3年)                                       | 松 藤 愛 里     |               |
|            | (3年)                                       | 森 石 裕 子     |               |
|            | (3年)                                       | 吉 井 尚 子     |               |
|            | (3年)                                       | 伊 藤 高 達     |               |
|            | (3年)                                       | 塚 本 伸 也     |               |
|            | (3年)                                       | 中 山 拓 也     |               |
|            | (3年)                                       | 中 岡 力 仁     |               |
|            | (3年)                                       | 西 田 知 広     |               |
|            | (1年)                                       | 久 保 和 也     |               |
|            | (1年)                                       | 福 谷 大 介     |               |
| ・事務局       | 広島工業大学工学部建設工学科内                            | 広土会         |               |
|            | 〒731-5193 TEL082-921-3121, FAX082-923-7083 |             |               |

## 土木見学会

### 『西風新都線工事見学会』報告



12年6月10日に開催された広島高速4号線の見学会の報告です。

広島都市圏では、山陽自動車道、中国横断自動車道などの高規格幹線道路の整備に対して都市内の道路網の整備が遅れています。そこで、中国四国地方の中核年である広島市の都市機能をより高めるため、都市交通の高速性・定時制を強化する自動車専用道路網の整備が急務となっています。

建設省、広島県及び広島市では、このような状況を踏まえ、広島都市圏の主要な幹線道路を自動車専用道路として整備することとし、この道路網を効率的にかつ早期に整備していくために、指定都市高速道路として整備することとしました。その中で広島高速4号線(西風新都線)は、主に市北西部地区からの交通を円滑に処理する放射道路として位置づけられています。

※見学会概要

日 時 平成12年6月10日(出)  
場 所 広島高速4号線  
見学箇所 橋梁新設工事  
トンネル新設工事  
杜の街造成工事



広島高速4号線(西風新都線)は、広島市の都心部(西区中広町一丁目)と「西風新都」の中心部(安佐南区沼田町大字大塚)をトンネルと橋でダイレクトに結び、約4.9kmの自動車専用道路です。この道路の整備により、都心部と山陽自動車道五日市インターチェンジを中心とする市北西部地区の連絡が格段に向上し、国道2号西広島バイパスや国道54号などの交通混雑の緩和が図られるとともに、広島都市圏の道路交通の高速性・定時制が一段と強化されることとなります。

また、広島市の主要プロジェクトとして開発の進む「西風新都」においては、アストラムライン(新交通システム)に続く交通アクセスの主役として、早期整備が期待されています。

広島高速道路公社の資料より抜粋

### 技術と信頼で

### 新しい未来を創造する



髙山陽技術コンサルタント

代表取締役社長 三 浦 勝 行  
(土 3期)

田岡康博 (土 3期) 平加照彦 (土10期)  
小川充司 (土11期) 児島一之 (土14期)  
渡辺 茂 (建 2期)

本 社 〒731-0154 広島市安佐南区上安1-12-27  
TEL (082) 872-3422 (代)  
FAX (082) 872-2460

建設コンサルタント 建10-第4480号  
測量 業 登 録 第(8)5175号  
補償コンサルタント 補11-第937号  
地質調査業登録 資10-第1721号